

綿密な飼養管理と減反田を活用した 十分な粗飼料確保による繁殖成績の 向上および堅実な規模拡大をめざして

佐藤綾（肉用牛繁殖経営・山形県遊佐町）

地域の概要

遊佐町は、山形県庄内平野の日本海沿岸最北部に位置し、北は秀峰、鳥海山をはさんで秋田県に接し、南はかつて北前船で隆盛を極めた酒田市に接している。気候は、日本海と鳥海山・出羽丘陵に囲まれているため、一般に多雨多湿の海洋性気候に支配され、冬期は、北西の季節風が強く、しばしば地吹雪にみまわれる強風寒冷地帯である。

遊佐町は平坦で肥沃な庄内平野の北部に位置し、良質米産地としての条件が整っていることから、水稻が基幹作物となっている。同市の平成27年の農業産出額は491千万円で、そのうち米が242千万円で全体の49.3%を占める。次に野菜が122千万円、次いで畜産が105千万円で全体の21.4%を占めている。

畜産においては、肉用牛が約420頭、豚が約9,075頭、鶏が約10万羽飼養されており、



佐藤綾さん

農業産出額では、豚が90千万円と最も多く、次いで肉用牛が14千万円となっている。

経営・技術の特色等

【活動の開始】

佐藤綾さんは就農後まもなく、就農支援資金や生産担い手資金、農業近代化1号資金等を活用し、繁殖規模を35頭に増やし、現在は51頭の経産牛を飼養している。

（表1）経営・活動の推移

| 年次 | 飼養頭（羽）数 | 飼料作付面積 | 経営・活動の内容 |
|-------|---------|--|--------------------------------|
| 平成20年 | 12頭→20頭 | 牧草：582.4 a | 新規就農、既存空牛舎を増改築し増頭開始。自家AI開始。 |
| 平成24年 | | WCS：834.6 a 牧草：582.4 a 稲わら：297.4 a | 生産組織を立ち上げWCSコンバイン、マニアスプレッター購入。 |
| 平成25年 | | WCS：1,005.6 a 牧草：582.4 a 稲わら：204.9 a | |
| 平成26年 | | WCS：1,420.7 a 牧草：582.4 a | 生産組織でラップマシンを購入。 |
| 平成27年 | | WCS：1,695.7 a 牧草：1,281.1 a | |

(表2) 経営実績 (平成28年)

| | | | | | |
|----------|---------------------|------------------|----------|----------|---------|
| 経営の概要 | 労働力員数 (畜産・2000hr換算) | | 家族・構成員 | 1.3人 | |
| | | | 雇用・従業員 | 0.0人 | |
| | 成雌牛平均飼養頭数 | | 44.0頭 | | |
| | 飼料生産 | 実面積 | 2,866 a | | |
| | 年間子牛分娩頭数 | | 37頭 | | |
| 収益性 | 年間子牛販売頭数 | | 5頭 | | |
| | 雌子牛 (肥育素牛生体販売) | 雄子牛 (肥育素牛生体販売) | 26頭 | | |
| 収益性 | 所得率 | | 67.4% | | |
| | 成雌牛1頭当たり生産費用 | | 544,265円 | | |
| 生産性 | 繁殖 | 成雌牛1頭当たり年間子牛分娩頭数 | | 0.84頭 | |
| | | 成雌牛1頭当たり年間子牛販売頭数 | | 0.70頭 | |
| | | 平均分娩間隔 (56頭分) | | 12.1ヵ月 | |
| | 雌子牛 | 販売日齢 | | 278日 | |
| | | 販売体重 | | 267.2kg | |
| | | 日齢体重 | | 0.96kg | |
| | | 1頭当たり販売価格 | | 696,168円 | |
| | | 雄子牛 | 販売日齢 | | 267.4日 |
| | | | 販売体重 | | 314.5kg |
| | 日齢体重 | | 1.176kg | | |
| | 1頭当たり販売価格 | | 843,480円 | | |
| | 粗飼料 | 成雌牛1頭当たり飼料生産延べ面積 | | 65.1 a | |
| 借入地依存率 | | 86% | | | |
| 飼料TDN自給率 | | 99.6% | | | |

3戸の農家とWCSの収集作業を協同行い、敷き料に使う粃殻は近隣の稲作農家から提供してもらい、堆肥は自家飼料畑のほかに他農家へ散布するなど多方面にわたり近隣農家と連携しながら生産活動を行っている。

【繁殖技術改善に向けてのたゆまぬ努力】

人工授精は自ら行い、分娩後の初回種付けを早めに行うことで1年1産以上の成績を目指し、色々な子牛の飼料給与パターンを試して育成成績の向上を図るなど、教科書通りではない自分なりの技術を見つけようと試行錯誤の努力を積んでいる。

具体的には、受胎した繁殖牛、未受胎の繁殖牛、分娩が近づいている繁殖牛と管理しやすいように分けて飼養し、牛の観察（発情兆候、BCS、健康管理等）を大事にして、適期授精に努めている。

繁殖成績向上や子牛の良好な発育のために、飼料給与体系のベースを作っており、授乳期牛の日給与メニューは、稲WCS15kg／

現物、配合4.5kg、大豆かす100g、ビタミンA,D（土日のみ）を基本に定期的に牧草給与を挟んでいることから、繁殖性、発情再期、分娩子牛体重などの成績に結びついている

また、当初、冬場の過酷な気象状況のもとで子牛の事故が多発していたが、牛舎環境の思考錯誤の改善で14%もあった子牛事故率を4%に低減してきた。

【今後の安定した経営展開に向けて】

補助事業を活用し、近隣の離農した畜産農家の牛舎を改築・修繕し、さらなる増頭と経営基盤の強化を計画している。「努力が必ず結果に出るので頑張れる。」と意欲的で、繁殖牛の血統や繁殖成績、子牛の販売成績を全てパソコンで管理し、並々ならぬ向上心が見られる。

豚肉文化の庄内地方において、肉牛生産を盛り上げたいと明確な目標をもち、故郷で自分の道を拓いていこうという将来のビジョンをもって農業を営んでいる。

耕畜連携の取り組み

東日本大震災後に不足する稲わらに対応するため、平成23年に畜産農家2名、稲作農家3名に本人が呼びかけ、県産稲わら緊急対策事業を活用して稲わら収集組織として「遊佐粗飼料生産組合」を立ち上げた。平成24年度は3haを収集し畜産農家3名で活用したが、収集期が天候不順の庄内ではわら品質が低い不安があり、稲わら収集も稲WCS収穫も可能なコンバインベアラ、マニユアスプレッダーを購入し稲WCSも同時に8.3haを取り組んだ。現在、遊佐町粗飼料生産組合として稲WCS35ha（うち本人分15.9ha）、牧草としてオーチャード、フェストロ1.28ha（本人分）を取り組んでいる。

綾さんは活動を主導するリーダー的存在で



牛舎内部



良質な稲WCS

あり、自己資金や補助事業を積極的に活用し機械を導入し、粗飼料生産面積を拡大するなど、飼料コストの削減や経営基盤の強化に大変意欲的に取り組んでいる。

飼料作物の生産に関しては、補助事業を活用し平成23年、24年、26年と継続して生産性向上に資する共同利用機械の導入を進め、中山間地に草地を13ha、転作田に稲WCS等を36ha自家生産しており、「遊佐粗飼料生産組合」に属する畜産3農家においては、粗飼料自給率100%を達成している。共同機械、個人機械を利用し合い、必要最低限の機械で運営しており、人員は各農家から出ることでの同意識を持ち、利用率に見合った精算を行うことで全戸に低コスト生産の効果がある。また、圃場への堆肥の還元により構畜連携を強め、地力の低下や耕作放棄地拡大防止にも貢献している。



敷料にはモミガラをふんだんに使用

地域に対する貢献

地域の組織においては遊佐町東山地区稲作生産組合長、庄内農業共済若牛塾副会長、庄内みどり農協和牛振興会振興委員など様々な役割を担っており、地域の農業振興に大変協力的であり、今後の地域の若手畜産農家のけん引役として期待される。地域の減反対象の水田1,585 aを受託し、WCSを生産している。借りている土地には堆肥を還元している。その他、有機米栽培農家へも堆肥を提供し、敷き料に使うモミガラは近隣の稲作農家から無償でもらっている。

耕種農家の面積増加に伴い労力軽減になっている。減反面積が拡大していく中で、高収益低労力作物としての魅力を見せたプランニングによりたくさんの方が集まってくれた。

生産組合長等、多数の役を持っていることで情勢等の情報には強くなった。簿記資格を活用し、数字に信憑性を持つことでビジネスとして計画的に事業運営している。

将来への方向性

繁殖牛を60頭規模まで拡大し、肥育も行いながら一貫経営を始めたい。ゆくゆくは遊佐町のふるさと納税のお礼の牛肉となる牛を育て、肉牛生産を盛り上げたいと考えている。